

教育広報 県 南

編集・発行

県南教育事務所

〒961-0971 福島県白河市昭和町269番地(合同庁舎4階)

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70310a/>

子どもの素直さ「に」培う 県南教育事務所長 羽染 聡

「違っているのは分かるんだけど、答えが〇〇になるんだよね。」と発言するH子。すると、M子は「私は、H子さんの考えとちょっと違うけど、その気持ちは分かる。」と温かい語り口でつぶやく。授業者は、学級全体を少し見渡してから、次のように子どもたちに問いかけた。「M子さんはこう言っていますが、皆さんはH子さんの気持ちは分かりますか。」すると、「ああ、僕もそう思ったんだよね。だって、…」と、解決の過程で自分もH子と同じ考えをしたが、途中で正しい考え方に気付いたことを、ある子どもがつなげて言った。そして、多くの子どもがそれに共感した。

このエピソードは、私が小学3年生を担当していた時の算数の時間のこと。「子どもは、素直な存在だ」「『気持ちを問う』『つまずきを生かす』とは、こういうことなのか」と強く感じた瞬間である。

「授業スタンダード」「『学びの変革』授業デザイン」において、「思考をつなぐ言葉がけ」に「〇〇さんの気持ちが分かりますか。」という文言が掲載されている。これまで実践してきた教員も多いだろう。一方で、つまずきを取り上げることや気持ちを問うことは必要だと分かっているが、難しいと感じる教員も少なくないのではないだろうか。どう取り上げればよいか、どうフォローをすればよいか悩んでいるのかもしれない。

私も、何度も気持ちを問うことに挑戦してみたが、当然上手くいかないことが多かった。見取りの甘さが

最大の原因だといつも気付かされた。教員の皆さんには、あきらめず恐れず何度も挑戦してほしいと願う。

話しは変わるが、佐伯胖氏の著書「『わかり方』の探究」の中に、「わかる」とはどういうことかについて、以下のように記されている。「『わかった!』のは、その子どもがある文化的価値を自分自身の自発性の下に積極的に受け入れたことであり、また同時に、その子どもがもつ『理解』というものが、その子どもをとりまく人びとにとって共有される新しいよろこび、価値の産出である、ということ。」

私の拙い経験からは、学級の子どものある考えを共有するまでに意外に時間がかかるものだと感じている。だからこそ、「分かったつもり」ではなく納得のいく「分かる」にしていけるために、子どもの学びの過程をよく見て、仲間と共に互いの思いや考えを徐々に共有させ、新たな価値に気付かせていくのが授業の本質なのだろう。

「人は、生まれながらにして、分かろうとしている」という言葉がある。学校生活は「教師と子どもの関係性」「子どもと子どもの関係性」の延長線上にある営みであるからこそ、子どもが元々もっている素直さを大事にし、その素直さ「に」培い、子ども一人一人の分かり方、感じ方など内面を見取り、子どもの成長を実感できる教師でありたいと、私自身、今思う。

※ 「培う」の本来の意味は、植物に土を被せて養い育てること→「素直さ『に』培う」という表現とした。

不祥事根絶宣言!

管理主事 鶴水達也

「私は、教育に携わる者としての使命と責任を深く自覚し、子どもたちの健やかな成長を支える立場として、不祥事を起こさない、同じ職場から不祥事を出さない」これは不祥事根絶宣言の冒頭部分です。常に肝に銘じておきたい内容であり、教職員が一丸となって不祥事根絶に取り組むために、あらためて確認したい宣言です。

さて、児童生徒の盗撮画像をSNS上で複数の教師間で共有し逮捕される衝撃的な事案が報道されました。本県でも令和7年度に盗撮による教職員の逮捕事案が発生しました。教職員による盗撮は児童生徒の尊厳と権利を著しく侵害し、教育に対する信頼を失墜させるもので、断じて許されるものではありません。

盗撮防止に関する通知^(※1)に基づき、各学校では対策はされていますが、①教師個人の私的な端末での児童生徒等の撮影禁止、②学校所有等の端末で撮影した児童生徒等の画像の管理職の許可を得ない学校外への持ち出し禁止、③教室やトイレ、更衣室等の定期的な点検及び教室等の整理整頓について、改めて徹底をお願いします。また、令和8年3月に改訂された不祥事根絶プロジェクトでは、「盗撮防止ガイドライン」が策定され、各種対応のポイントが具体化されていますので、各学校の実態に応じて有効な活用をお願いします。

不祥事根絶プロジェクトに基づく取り組みにより、懲戒処分件数の減少等の成果^(※2)が見られる一方、重大かつ悪質な事案も発生しています。教育長メッセージである「教育は、教職員や学校に対する信頼の上に成り立っています。児童生徒が教職員を信頼できないところに教育は成り立ちません」を、各学校で再度共有をお願いします。県南域内の「職場の力」が集結し、「県南の力」となり、県南の不祥事根絶につながるよう、県南教育事務所として研修会や訪問等を通じた支援に取り組んで参ります。

(※1) 「児童生徒性暴力等の防止等に関する教師の服務規律の確保の徹底に係る取組について」(令和7年7月11日付け7教職第225号)

(※2) 懲戒処分件数：令和7年度13件、令和6年度27件、令和5年度20件



生徒指導と道德教育の充実

県南教育事務所では、今年度の重点として「誰一人取り残されない学びの場・居場所の保障」と「学校教育全体で取り組む道德教育の推進」を掲げています。近年、不登校やいじめをはじめ、様々な困難や課題を抱える児童生徒が増えています。その中で重要となるのが、生徒指導提要で示されている「発達支持的生徒指導」の考え方です。課題が生じてから対応するのではなく、すべての児童生徒を対象に、継続的に成長を支え、自己存在感や自己有用感を高める取組を積み重ねることが、不登校やいじめの未然防止につながります。特に、児童生徒が多くの時間を過ごす授業の充実が欠かせません。学習指導と生徒指導を一体的に捉え、一人一人が認められ、活躍する場面を設定することや教職員による温かな声かけや価値づけを積み重ねることが、安心して学べる学級・学校づくりの基盤となります。また、道德教育の充実、他者を尊重し、よりよい人間関係を築く態度の育成につながり、生徒指導上の課題の予防にも大きな役割を果たします。不登校の予兆やいじめを認知した際には、初期対応を丁寧に組織的に行うとともにSCやSSW等の連携も図りながら、児童生徒一人一人に寄り添った支援を進めていきましょう。各種訪問や研修会を通して、児童生徒が安心して学び、自分らしく成長できる環境づくりを支援してまいります。

健康マネジメント能力の育成

今年度よりオンライン版「自分手帳」が本格的に活用開始となりました。5月8日(金)には、各学校よりオンライン版「自分手帳」活用講習会にご参加いただきありがとうございました。講習会での内容を、校内で共有していただき、子どもたちの健康課題の解決に向け、計画的、組織的に活用いただきたいと思います。

これまでご活用いただいていた冊子版とオンライン版との大きな違いは、睡眠時間や心の状態を入力できることや、WEB上にある各分野の資料と紐付けされている点です。

特に、睡眠時間の入力では、「健康マネジメント能力」の育成に向け、子どもたち自身が、適切な睡眠時間の確保を中核としながら、健康の保持増進に向けて生活習慣を改善していけるよう、引き続きご指導いただきたいと思います。

また、「体力・運動能力調査」や「朝食摂取率調べ」なども、このオンライン版「自分手帳」を使ってご回答いただくようになりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

今後も各種研修会等を通じて、活用例等をお伝えしていきます。



資質・能力の育成と学力向上

～学びの「見取り」と「価値付け」～

県南教育事務所では、「学びの『見取り』と『価値付け』」に重点を置きながら、各市町村教育委員会と連携し、「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び、協働的な学び」の実現のための支援、各種学力調査のエビデンスに基づく指導改善と学校の組織的な取組の充実を支える支援、情報活用能力の育成のための支援をしています。また、要請訪問、伴走支援訪問、スタートアップ訪問、スキルアップ訪問等の各種訪問の際には、「県南版・授業改善3つのポイント」に示している県南の重点に沿って、各教科の資質・能力育成と学力向上のための授業づくりについて支援をしてまいります。

県南版授業改善3つのポイント

学び出す 教材との出会わせ方を工夫し、「考えたい」「やってみよう」という思いを引き出すようにしている。

学び合う 子どもと子どもの発言をつないで、集団で学び合える授業づくりをしている。

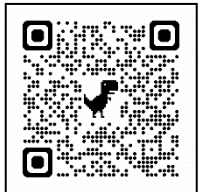
学び取る 授業で何がわかり、どのようなことができるようになったのか、自分の言葉で学んだことを振り返らせている。



「特別支援教育の充実」

「地域支援体制整備事業」による相談・研修支援を多くの園や学校に活用いただき、昨年度の依頼件数は延べ72件でした。相談の内容からも、通常の学級における特別支援教育のニーズが高まっており、特別な支援を受けた生徒が高等学校へ進学するケースも増えております。校種を問わず、すべての教員に特別支援教育の専門性が求められてきています。

このような現状を踏まえ、県南教育事務所では、特別支援教育の重点として、「連続性のある多様な学び場の推進」と「一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実」をあげています。各種訪問における指導助言の他、「地域支援体制整備事業」による相談・研修支援を通し、学校全体で特別支援教育に取り組む校内体制の整備と教員の専門性の向上に努めてまいります。また、子ども達が、個に応じた支援を切れ目なく受けながら学ぶことができるよう、個別の教育支援計画の引継ぎ・活用も引き続き推進してまいります。つきましては、特別支援教育センターから発行されております「コーディネートハンドブック2025年版」や研修体系表に基づく「研修パッケージ」についてのリーフレットを各園・学校に送付させていただきました。ホームページ(QRコード参照)にも特別支援教育センターのホームページに掲載しておりますので、ぜひ、ご活用ください。





社会教育課では、「家庭・地域の教育力の向上」「子どもたちの豊かな心を育む体験活動の充実」「生涯学習推進による人づくり」の3つの重点を掲げ、学校、家庭、地域の教育力の向上を目指し、各事業に取り組んでまいります。

1 家庭・地域の教育力の向上

家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、PTAと連携し、家庭教育について親自身が学ぶ機会が充実するよう「親子の学びを応援する講座」を行っております。今年度も、「情報モラル」についての講演会を実施する予定です。

また、当事務所では、「家庭教育支援プログラム」において、家庭教育の支援も随時行っております。さらに家庭教育に関する研修会の開催や不安や悩みを抱えている家庭に対し、個別かつ継続的な支援を行う「家庭教育支援チーム」の設置も促進し、家庭教育支援の充実を図ってまいります。

2 子どもたちの豊かな心を育む体験活動の充実

学校・家庭・地域が連携して子どもの読書活動を推進し、子どもたちの豊かな心や生きる力の育成を目指しています。

そのために、学校や図書館等で活躍できる読書ボランティアや司書の先生方等を対象に「読書活動支援者地区別研修」を開催する予定です。

3 生涯学習推進による人づくり

地域における教育力の低下や家庭の孤立化、学校を取り巻く問題の複雑化・困難化に対して、社会総がかりで対応することが求められています。そのため、学校と地域がパートナーとして連携・協働する組織的・継続的な取組が必要です。さらに、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を図ることで学校の教育活動の支援や多様な課題への対応がより効果的に進められます。各地域の実態や特色を生かした取組が一層充実されるよう関係者間の理解促進、連携強化のための研修会を予定しております。

研修会等の詳細につきましては、今後配付する案内・ちらしやHP等をご覧ください。

また、LINE「県南社教」において、社会教育課の事業や研修会等の情報も随時配信しております。ぜひとも右記のQRコードから、友だち登録をお願いします。



LINE「県南社教」
QRコード



「やらねば何もかわらない」

白河市立白河第二中学校

全校生徒449名、普通学級13学級、特別支援学級5学級で令和8年度がスタートしました。若手教員の多いフレッシュな組織のもと、教育目標「知性・敬愛・健康」の実現を目指し、スローガン「やらねば何もかわらない」を掲げ、一人一人の可能性を伸ばす教育を推進しています。また、教職員が「声に出す」ことを大切に、ボトムアップによる学校運営に努めています。本年度から、新1年生の制服はジェンダーレスに配慮したブレザータイプとなりました。令和6年度に完成した新校舎の雰囲気と、刷新された新しい制服との相乗効果もあり、学校全体に明るく新しい息吹が感じられます。生徒会活動では、生徒が主体となって学校行事の企画・運営や学校生活のきまりの見直し・改善に取り組み、自主性や協働性を育てています。部活動においても「人づくり」を合言葉に、生徒指導の面で大きな成果を上げています。教職員と生徒が思いを共有し、ともに成長できる学校づくりを進めたいです。



「棚倉の子が拠って立つところ」

棚倉町立棚倉中学校

昨年、築城400年目を迎えた棚倉城は、棚倉藩に住む先人たちの拠りどころのような存在であったと思います。そのような拠りどころを中心に歴史と伝統を育ててきた棚倉町唯一の中学校が、棚倉中学校です。私たちの先人たちは子ども時代、藩校や寺子屋で学び大人になった暁には、藩を支える大切な人材として、平和な江戸時代を謳歌する町民としてご活躍されたはず。将来、永く続いていく地域社会の創り手として、よりいっそう平和な社会を実現する一員として貢献できる人材になるべく、かの時代の子どもたち同様に、現代の棚中も熱心に学んでいます。現代の棚倉町にかつてのお城はないですが、代わりに「キャリア教育」という大切な拠りどころが存在しています。幼稚園、小学校、中学校と、共通の拠りどころを大切にしながら学ぶ棚倉の子どもたち。昨年度末には棚中の141名の高校受験生全員が、第一志望校に合格を果たすことができました。幼小中の長年にわたり自分の歩む道を、発達段階に応じて自身の力で舵取りしようと努力しながら進んできた成果を発揮し、新たな道を切り拓いた瞬間でした。これからも、人生を自ら舵取りする力を育てていきます。



新任の抱負

～新任の先生方から～



「信頼される学校づくりを目指して」

福島県立白河実業高等学校
教頭 阿部 和美

この度の人事異動により、白河実業高等学校に教頭として赴任いたしました。実業教育の拠点として輝かしい歴史と伝統を持つ本校に身を置き、その責任の重さに身が引き締まる思いであります。生徒一人ひとりが自己の可能性を最大限に伸ばし、将来の地域社会を支え、貢献できる豊かな人材の育成を目指しています。校長先生を補佐し、先生方が遺憾なく力を発揮できる安心で活力ある環境づくりに努めてまいります。また、地域や保護者の皆様に信頼される学校づくりを目指し、日々の教育活動に誠心誠意取り組んでまいります。



「恩送り」

白河市立東北中学校
校長 山田 淳市

教諭として6年間勤務した東北中学校に、この4月に校長として赴任しました。素直な生徒と協力的な保護者・地域の方々に恵まれたこの地で、教諭時代に受けた恩を生徒たちに返していきたいと考えています。

さて、着任して3か月ですが、校長職の多忙さに正直驚いているところです。今後は、教職員との対話をもとに本校の強みと課題を明確にし、生徒の「未来を切り拓く人間力」の育成を目指して、教育活動の充実と改善に努めてまいります。保護者、地域と連携し、地域に根差した学校経営に取り組んでいく所存です。



「チーム三神」

矢吹町立三神小学校
校長 小池 薫

4月1日、三神小学校に着任しました。県南地区の勤務は初めてで不安でいっぱいでしたが、三神小学校の教職員のみなさんがあたたかく迎えてくださり、不安な気持ちが和らぎました。豊かな自然に囲まれて育った子どもたちは、素直でのびのびと学校生活を送っています。保護者や地域のみなさんは子どもたちを大切に思い教育活動に協力的です。そんな三神小学校で校長としての教員生活が始まりました。教職員の力、地域の力を一つにまとめ、「チーム三神」で子どもたちの成長のために、安心安全な学校を作るために取り組んでいきたいと思えます。



「笑顔と学びあふれる学校づくりへ」

矢祭町立矢祭中学校
教頭 神永 友輔

この度の異動で、豊かな自然と「読書のまち」として知られる矢祭町立矢祭中学校に赴任いたしました。身の引き締まる思いと同時に、使命の重さを実感しております。変化の激しい時代だからこそ、校長先生の経営方針のもと、教職員が結束して日々の教育活動に専念できる環境づくりに尽力いたします。また、生徒たちが安全に安心して学び、自らの可能性を最大限に伸ばせるよう、地域や保護者の皆様との信頼関係をより一層深めてまいります。県南の温かな地域力にはぐくまれた生徒たちの未来のため、誠心誠意、職務に邁進する所存です。



「学びをつないで」

棚倉町立棚倉小学校
教諭 青砥 奈央

新採用として棚倉小学校に着任し、2ヶ月がたちました。日々の生活の中で教員としての在り方を学び、不安しかなかった4月と比べると、少しずつ挑戦していきたいという前向きな気持ちが大きくなってきました。今はたくさんの先生方に支えていただくことが多いので、様々な技を見つけ、自分のものにできるように学び続けています。子どもたちから学ぶことも多く、反省を繰り返して、より良い学校生活になるように励んでいます。多くの学びを得て、それをつないでいながら子どもたちとともに成長していけるよう努めてまいります。



「日々前進」

泉崎村立泉崎中学校
教諭 深谷 泰良

4月より新採用として泉崎中学校に着任しました。豊かな自然と温かい地域の方々に囲まれた泉崎中学校で、教師としての第一歩を踏み出せたことを嬉しく思います。子どもたち一人一人と真摯に向き合い、生徒の可能性を最大限に引き出せるよう全力でサポートしていきます。日々の授業や部活動、学校行事を通して、生徒たちが学ぶ喜びや仲間と挑戦することの大切さを実感できる環境づくりができるように努めていきます。

これからも同僚の先生方や子どもたち、地域の皆様に信頼されるよう、ご指導をいただきながら前向きに尽力してまいります。

